

ほけんだよい 卒業生特別号

平成30年3月12日(月)

久之浜中学校 保健室

雪のない土地で生まれ育った少年がいました。
雪を降らせるほどの寒さがどんなものか想像が付きませんでした。
雪国の冷たく透き通った空気も、雪景色のまぶしさも、雪の上を歩く感覚も、
まだ経験したことがありませんでした。

ある日、少年は友だちと「北の国へ雪を見に行こう」と語り合いました。
友だちはまじめな優等生でした。
友だちは、せっかくならと、最も良い雪景色の見えるところへ
最も良いルートで行こうと調べ始めました。
ところが、なかなか最も良い計画が決まらずに月日は経つばかりでした。
少年は言いました。
「僕はもう出かけるよ。雪を見に旅に出るよ。君もさあ一緒に行こう」
友だちは答えました。
「いや、僕はもう少し、最も良い場所とルートを調べることにするよ」

ひとり旅に出た少年は、雪国にたどりつきました。
初めて見る雪景色の美しさに感動しました。
雪遊びもしました。雪国の人々の暮らしにも触れました。

ふたりの少年は、やがて老人になりました。
少年は友だちに聴きました。
「あれから君も雪を見たかい？」
友だちは答えました。
「いや、まだだ。最も良い場所とルートを調べている最中だよ」



雪を見ずに終わった少年と雪に触れた少年を分けたものは、「行動」でした。私たちも、「自信さえあれば」「環境さえ良ければ」「才能さえあれば」などと、条件が満たされないからと、行動できないことがあります。「気がかりなこと」や「他人の動向」に振り回され、自由に行動できないことがあります。しかし、それらを「取り除くことが、「行動する」のに本当に必要なことなののでしょうか。必要だとしても、これさえそろえばという「条件」や気がかりなものへの「とらわれ」というものを、いっさい排除することは到底できないはずです。

不安もあり、感情の波立ちもあるのが人間というもの。「排除してから」との姿勢は、雪を見ることのなかった少年の姿勢と変わりはないと言えないでしょうか。

引用 「幸せってそういうことだったのか!」 リズ山崎 著

この先の人生、不安や苦手なことがたくさん待ち受けているかもしれません。それを乗り越えて生きていくためには、「ありのままの自分を受け入れること」が大事です。不安や苦手なことをなくさなければ始められないというのは、完璧な人間でなければ幸せになれないと考えるようなものです。完璧でなくたっていい。不安があったっていい。周りとは違ってたって、いいじゃないか。きみにはきみにしかできないことがある。ありのままの自分を大事にして、素敵な未来を切り開いていってください。1年間ありがとう。